

DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

1998.4.24 No.24

編集・発行 大同工業大学社会交流センター
〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3
TEL 052-612-6193

No.24

TS

座談会

って、どんなところ?

別スタート
博士 他

のみなさん
訪ねて①

工科大学から来訪 他

ライフ
祭、クラブ紹介 他
10周年を記念して
ATION



CONTENTS

特集：大同 大学院

- TOPICS
昼夜開講制
本学初の博
- 新任教員の
- 研究室を説
- アンテナ
アーヘン工
- キャンパス
第33回宴
- 桃介没後6
- INFORM

大キャンパス

1998
APRIL

4

大同工

大学院って、どんなところ？

大学院進学が増えている。特に理工系の分野では、学部4年間では専門教育が十分とはいえないことから、どの大学でも修士課程への進学が急増している。本学でも今年度の修士課程進学者は52名で、学部卒業生の1割に近づいている。そこで、学部生の皆さんに「大学院って、そういうところか」とわかっていただくために、OB・現役院生の生の声をお届けすることにし、桜咲く土曜日の午後、滝春キャンパスの一室に集まっていた。

先輩には、修士課程を修了してすでに実社会で活躍(苦勞?)している高須さん、飯田さん、吉田さんに貴重な土曜日をあけていただいた。現役院生の西川さんと米村さんには1年間の体験を語っていただいた。山田さんと小川さんには、学部生の代表として先輩に質問をしていただいた。

なお、アドバイザーとして、今年の建設工学専攻の主任である山本俊彦教授に同席をお願いした。

出席者		
アドバイザー	建設工学専攻主任	山本俊彦教授
OB	1995年建設工学専攻修了	高須 悟さん (株)名光コンサルタント 名古屋支店勤務
	1996年機械工学専攻修了	飯田健一さん (株)リンナイ生産技術部勤務
	1996年電気・電子工学専攻修了	吉田昌也さん (株)トーエネック大垣営業所勤務
修士課程	機械工学専攻2年 建設工学専攻2年	西川雅規さん 米村 健さん
学部生	電気工学科4年 建設工学科4年	山田雅敏さん 小川美保子さん
司会者	社会交流センター事務室長	野村秀樹



左から 飯田さん、高須さん、吉田さん、山本教授

修士出というだけで 有利になるわけではない

司会者／今は、採用のほうは、学部卒と大学院卒はどんな感じですか。

吉田さん／トーエネックは僕の年で大卒で60人採った内、大学院出は7人入りました。大学院出の採用は今まではなかったことなんです。

飯田さん／リンナイは技術系は僕の同期が18名入って大学院と学部と9名で半々。コンスタントに半々入れてます。ちょっと前に遡れば大学院卒はいないですけど。

吉田さん／最初の一年はずっと勉強で、まず半年は大同町の教育センターにいまして、電柱に登っていました。電柱に登って眺め

がいいなと、でもこんなことをしながらずっと僕はやって行くやろかと思ったらすぐ辞めたくまりました。現場で電柱に登る人らと一緒にやって、上から物を投げられたり、「何じゃい」と言われながら現場の人の本当のえらさというのを味わって、それからやっと今のところに配属されて丸1年が経ちました。1年目にしては、いろんなことをやらしてもらって、いい思いをさせて頂いてます。

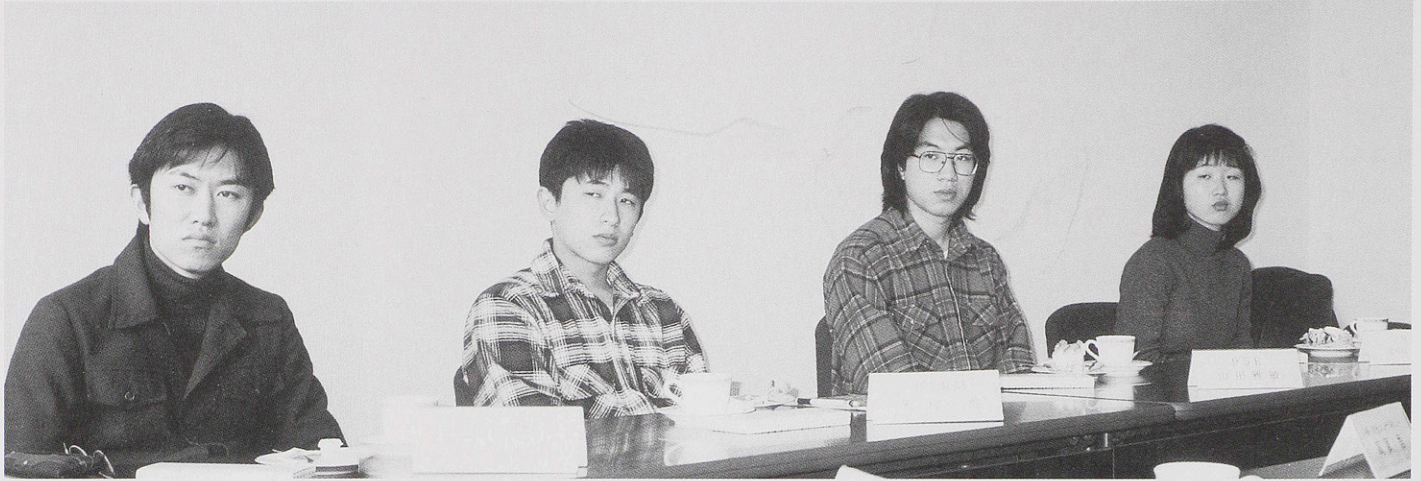
山本教授／学部卒と大学院卒では待遇面で差はあるんですか。

飯田さん／歳の違いだけでしょ。学部卒との2年分だけの違いでしょ。給与面とか、待遇とか、歳の分だけ早いんですけど、業務の内容はかわらない。

司会者／大学院だから特別に有利というのでなくて、年齢で見れば同じ。後は実力が評価されるので、大学院に行くことによって力がつけば、それが評価されるということですか。

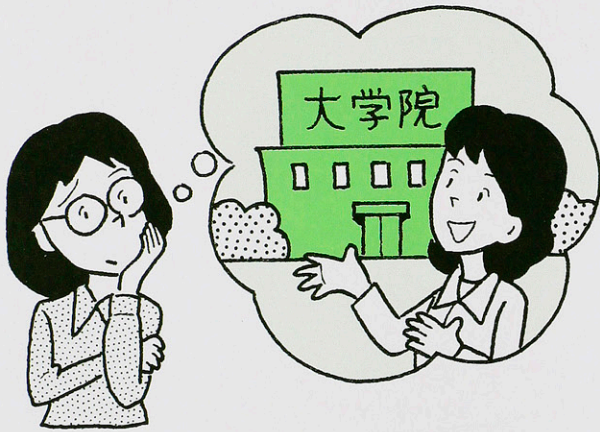
飯田さん／そうです。

大学院って、どんなところ？



向かって左から西川さん、米村さん、山田さん、小川さん

人に奨められて進学



司会者／現役院生のお二人、なぜ進学したんですか。

西川さん／僕は、特に大学院の進学を希望していたわけではなく、先生達に奨められて大学院に入ってしまったんです。

米村さん／大学に入学した当時から大学院を一応希望していたのですが、3年生の時にはあんまり勉強しなかったので就職しようかと思ったんですけど、先輩に進められてそのまま行ってしまった。

大学院進学は経済面が気になったんですが、先生から、親は子供の幸せを願ってるからそんなものは気にするもんじゃないといわれて志望しました。

司会者／4年生の二人は、大学院をどう考えていますか。

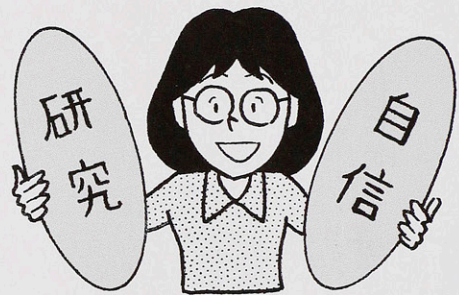
山田さん／大学院は、卒業研究なんか多分1年では終わらないと思うんですよ。それを発展させるためにも大学院の2年間が必要なんだと思っています。

小川さん／女子の就職が良くなって、大学院に行った方がまだあると言われたんで、大学院を考えています。ただ、受かるかどうか判らない。

司会者／難しいですか、入試は

山本教授／試験問題は難しいですけど、出来るか出来ないかは別問題なんです。大学院も定員はあるんですが、学部のように厳しい定員ではなく、大学院で勉強したいという気持ちがある方には、かなりの割合で入ってもらっています。

力がつく研究活動



司会者／実際に大学院に入ってみて、どうでしたか。

西川さん／まあ良かったかなあ。言い方が悪いんですけど、好き勝手ができることが一番大きいですね。授業はそんなに数がないんでそれほど時間をさく必要がない。自分の研究に対して、自分の思っていることをどんどん入れていける。それに、ぶっちゃけた話なんですけどテストが無いんですよね、授業に出て、最低、レポートまとめれば、OKみたいな感じがありますね。

米村さん／建設も大体同じだと思います。先生も自分の研究に力を入れてほしい、みたいじゃないんでしょうか。

西川さん／やっぱり、研究がメインなわけです。研究してゆくと、自分が判らないところが当然出てくるんで、その対処は自分で調べてやる、みたいことで、授業メインじゃない。授業は、ある意味では必死にならなくとも、出ておれば大丈夫。授業自体人数が少ないんで、やり易いといえぱやり易い。

司会者／と、現役の院生が言ってますけど、先輩方、そんなことでいいんですか。

吉田さん／僕は、それで良いと思います。研究をやることでどんどん自信をつけてほしいんですよ。それで自信を持ったら、就職試験に行っても、何を言われても絶対負けない気でやれるんですよ。工業系の大学に入ったけど、電気のオームの法則もまともに解っていないみたいな学生ばかりがいるんですよ。でも、研究のことをしっかりやってる人間というのはその研究だけの話ではできるでしょう。対等に喋ることができるでしょう。

一つでも自信を持っていることがあると、人に対して強気にいけ

れる。それが、何時も引け目を感じていると、どうしても就職試験に行ったときにも顔に出てしまうのね。

山本教授／大学院生が来る時に二つのことを言うんですよ。学部と違うというのをね。自分の研究を先ずやること。研究をやって、いろんな大会に論文を出したりして、自分の意見を発表する。建設の場合だと、機会は大体年2回から3回、2年間で6回位あるんですよ。だんだん発表がうまくなって自信がついてくる。必ずそういう発表をしてもらっている。もう一つは、リーダーシップを持ってもらいたい。自分の研究をやるためには、何かリーダーシップを取ってやっていく。自分の考えはこうですと人に伝える。組織の中の一部をまとめていく。その2点を是非やってもらおうと自信がつく、だから学部とは大分違うんじゃないか。

高須さん／さっき言われた発表とかそういうのは、いま会社で自分がやっている仕事に関係していると思います。市役所の担当者を納得させることと大学院で研究したことは、そのトライの仕方が共通しているんじゃないかと思っています。

司会者／研究した中身もさることながら、そういう面で、もっと大きな経験なり能力が身に付いているということですね。院生は学会でみんな発表しているんですね。

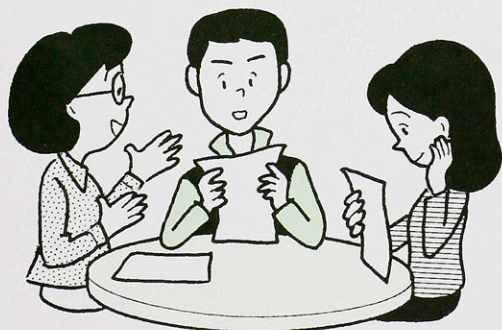
山本教授／1年目から発表できる人もいるし、出来ない人もいます。2年生は発表する機会が多くなる年だけど、就職とか重なってなかなか大変ですけど、そういうところを乗り切ると自信がついて、これこそ大学院のいいところなんで、積極的にやってもらいたい。自分の為みんな聞いてくれるわけですからね非常にいい機会です。

飯田さん／今、仕事をやり始めたばかりで、仕事自体は学部卒と同じことをやるんですけど、2年間余分に勉強してきたんで、何となくゆとりがあるというか、いろんな事があっても狼狽しないというか。研究とか発表とかで身につけていて、すごい大変な業務をやっている、いざとなると何となく、まだ余裕があるという感じがあります。

司会者／それは修論をやった過程で身につくものなの。

飯田さん／そうだと思います。学部の場合は、先生から言われたことをするんですけど、院生の場合は取り合えずテーマは与えられるんですけど、それを完成させるのは自分でやらないといけない。先生がこうしろああしろと言わなくても、テーマをもらって、後は、自分のやりたいようにやってゆく。それが会社に入ってから役に立つ。

学部とは趣の異なる授業



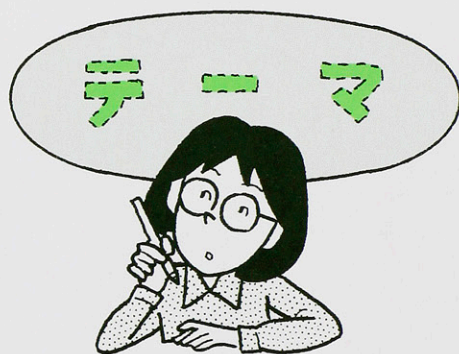
山田さん／大学院の授業は学部とは違った授業ですか。

西川さん／形式は学部と同じような授業もあるし、こういうディス

カッションみたいな授業もあるから、一概にいけないけど、内容は多少高度にはなってると思う。こういうディスカッションみたいな授業もあるというのは結構おもしろい。

機械専攻の中でもそれぞれ分かれるんですよ。機械システムであったり、メカトロの方であったり、分かれてゆくと、もともと少ないのが更に少なくなるので、そうするとこの部屋ぐらいの教室に全員入れることになるので、先生が一方的に喋るような授業でなくて、この討論会みたいな授業になる。ただ、負担が大きいですよ。予習して自分でレポートを作って全員に配って、レポートに対して報告する。周りから質問受けて、これはこういう事ですよと説明する。先ず自分で理解しないと人に説明できないから。教授が授業してくれるのではなくて、学生が授業する。そういうのが多くなってくる。

学部の卒研が大切



小川さん／よく判らないんですけど、予め自分でしたい事があって大学院に入るんじゃないんですか。

吉田さん／大学3年生の時に、アメリカ短期留学に行って、その時の教授と話をしてて、卒業研究、なんでもいいからやってみると言われた。もし会社に行ったらとしますと、どんな仕事をもらうか判らないわけでしょう。それと同じことと考えて、研究室に入って、何をもらってもいいわけで、どういう順序でやっていくか、そういう手順を勉強せよ言われた。

僕があの時考えたことは、大学3年経った時点で三百何十万円払っているわけですね。それで学校もサボってたわけですね。大分親不孝して来た。それで自分も損した。と。そんだけ分は取り返さなきゃいかな。そんな気になりまして、そうしたら、先生もどんどんやらしてくれますよ。それが良かった。

大学院はあくまでも卒業研究の延長で、学部生には、大学院に行く前に卒業研究を一生懸命やることを考えてほしいな。

小川さん／その卒論なんですけど、何がしたいのか判らないし、どの先生がいいのかわからない。

吉田さん／判らんかったら、どんどんいろんな教授とこへ行くべきだと思います。どんどん先生とこに行ってみると、面白味も判るし、また違った面で広い視野で見えるじゃないかな。

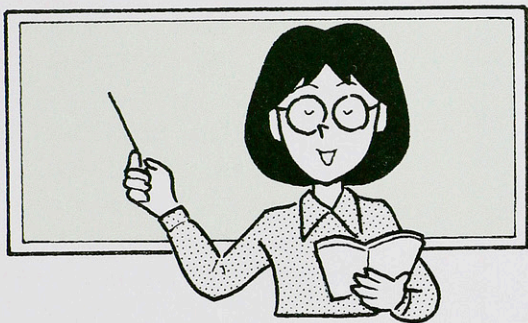
米村さん／卒論発表というのをやってますよね。あれを見に行くと、こういう感じのものをやっているということが判る。

小川さん／卒論の発表があった直後に(卒論の配属を)決められるという問題がある。2年の時にも見に行けばよかったと思う。

西川さん／やりたいテーマがどうのこうのとのお話ですけど、そこに僕はあんまりこだわらん方がいいと思うんです。こだわりすぎるとかえって良くないというか、多少絡んでいる程度でいいと思うんですよ。就職してからでも、絶対自分がこれをやりたいというところに行けるとは限らない。自分がやりたくないことやったら、やらへんのか。そういうわけにはいかんですよ。だからテーマにあんまりこだわると、逆に足引っ張ると思うんですよ。

飯田さん／僕も同じような事を考えていたんですよ。やはり、テーマにこだわってしまうと、そのテーマにうまくつけられいいんですけど、多分あまりないと思うんです。ちょっと外れたら、「そんなつもりで院に来たんじゃなかった」ということで2年間棒に振るような事があってはいけない。もしテーマが違って、自分がやりたいことは大体見えてくるんで、それをどんどんそのテーマに入れてって、先生と話し合いながら方向を変えて行くんですよ。自由度はあると思うんで、それをやっていけば最後には自分のやりたいこと、テーマになったということになる。ある程度持っているのはいいと思うんですけど、こだわり過ぎちゃうといけません。

自分を成長させるT A



西川さん／成長する上で、自分の下に人（学部生のこと）がつくというのが大きいですよ。あとT Aの制度、ティーチングアシスタントはすごく役立っている。人に物を教えるというのは、自分がかなり理解していないと、教えられないですよ。

吉田さん／そうです。T Aをやると、責任というものを感しました。人に教えることは、すごく自分の勉強になります。

米村さん／大学院生というのは、ティーチングアシスタントもあるし、卒研生も面倒みていかないかんというのも、全部自分の責任になってゆくから勉強になります。

西川さん／自信にもなってゆくわけ。知識よりそういう経験が積まれるということの方が大きい。

担当した授業の最後に（T Aについて）感想を書いてもらうんですよ。で、感想に「非常に分かり易かった」とかあると、やっとなかったなと。如何に理解させるかとか、それらを考えながら授業してゆくと面白い。

吉田さん／僕は学部の時、一番サボッタ実験をあえて選んだ。だから1年目はクチャクチャでした。本当に学生さんには悪かったなと思ったんですけど、2年目はなるべく講義をしようと、講義30分してそれから実験、というふうにやるように心がけていました。

西川さん／前のT Aから引継がれたんですけど、先生が何を

やってるのか全然分からない実験だったんで、これは僕が分かるようにしたろうかと思って、実験始める前に10分、基礎から全部みっちり話したら、「ああなるほど」と言ってくれたので、理解してくれたのかなあと。おもしろいですよ。

欲しい大学院の情報

司会者／そろそろ終わりの時間になってきました。まとめみたいですが、大学院に行ってることのメリットは、今までの話だと、自信とか、問題解決の方法みたいのが身につくということですか。

高須さん／まだ、あります。人間的に繋がりが広がると思うんです。僕は、部活などやってなかったんで、大学院に進んで、T Aで3年生2年生と喋る機会が出来たし、土木ですが、建築の人とも繋がりが出来るし、人間的に繋がりが強まる。

司会者／それは、学部の時とは違うのですか。

高須さん／全然違います。学部の時土木は土木の仲間内で、飲みに行くだけで、（大学院で）上下にも横にも広がりが出来る。

西川さん／自信という面では、学部卒と院卒では全然違うと思います。

司会者／大学院への進学指導について何かありますか。

西川さん／就職のガイダンスで、取りあえず先生が名簿を見て、「成績良いねと」、「大学院はどうや、大学院はええぞ。」みたいな話をするんですよ。「設計やりたいと思うのなら大学院へ行け」と。それで、学生の方は、それを聞いて「じゃ考えてみます」という。それくらいの指導では大学院に対する知識なんてほぼゼロだと思うんですよ。だから、学部の延長じゃないよということを、もっと強調した方が良くないと思うんですよ。そういう情報が来ないんで、訪ねて行かないと分からない。訪ねて行くのがちょっと面倒くさいから、しない。だから分からない。もうちょっと情報を流さないと、分からないまま進学して2年間無駄に過ごしてしまう人も多くなる。

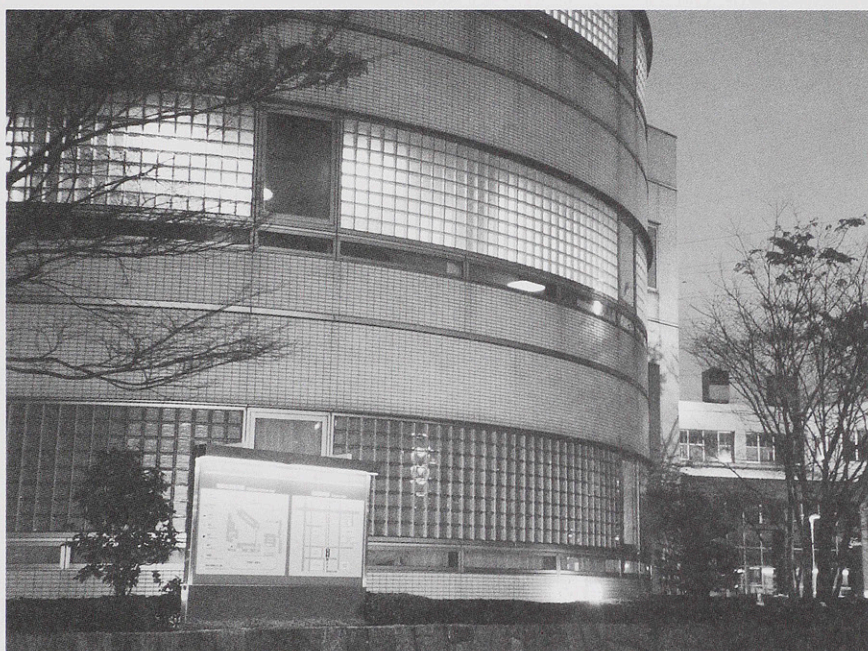
飯田さん／学部卒だから、設計には行けないというのは間違いだと思います。うちの企業だけかもしれませんが、大学院出ても設計以外をやってる人もいますし、学部卒の人でも設計をやってる人もいますので、（「実力次第？」）そうですね。

吉田さん／大学院という目でみられるから、厳しい評価にもなる。でもそれに打ち勝って行くくらいの気持ちで勉強をやってほしいなあ。高校卒業して、会社でトレーニングする人もいます。大学に行ったら、大学しか出来ないようなトレーニング、大学院しか出来ないトレーニングをしてほしいんですけど。

飯田さん／いま大学院にいる人に考えて欲しいことは、社会に出たら納期がある。納得していなくても、限られた時間で納期に合わせなければならない。その点、大学院の時は、比較的時間があるので、何かあったらじっくり考える。そうすれば、いろんな方法があると分かると思う。そういうトレーニングをして置いて欲しい。

司会者／学部4年間と大学院2年間とでは、質が違う。大学院が何だということを分かって入って来てほしいということですね。今日は有り難うございました。

本格的な生涯学習時代に向けて 昼夜開講制、スタート ～理工系私大では中部地区初～



夜も明るいキャンパス

理工系私大としては中部地区で初、全国でも2番目という新しい制度が本学で始まりました。「昼夜開講制」です。

これは、大学が授業時間帯を大幅に拡げ、昼も夜も授業を行うことにより、「すべての人々が、人生のあらゆる段階で、望むときに大学で学ぶことができるように」という、本格的な生涯学習時代実現の理念に基づくものです。

これに伴い、本学の学生はデイトタイム・コース（正式名称「昼間主コース」）かフレックス・コース（正式名称「夜間主コース」）に所属することになり、しかもどちらのコースの学生も昼の授業も夜の授業も履修できることとなりました。（制度については本紙1月号に解説記事掲載）

4月10日からフレックス・コースの授業が開始になり、夕暮れの中を、三々五々学生がキャンパスに集まってきます。今年は1年次生だけなので、各学科をあわせても100名の学生ですが、来年から年々増加し、3年後には500名（定員レベル）の学生に夜の授業を履修するデイトタイムコースの学生も加わって、賑やかな夜のキャンパスとなっていることでしょう。

キャンパスには数多くの照明が新たに設置されて、明るい夜のキャンパスに変わりました。図書館や情報処理センター、事務室などのオープン時間も長くなりました。学生の皆さん、昼も夜も、キャンパスのもつ機能をフルに活用し、エンジョイしましょう。

平成10年度 入学式

過去最高の969名が入学

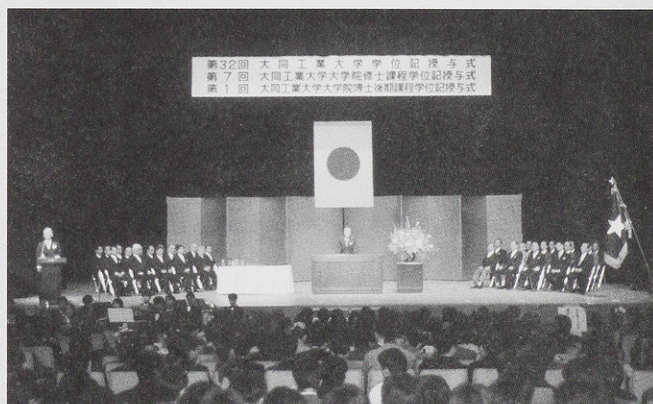
平成10年度入学式は、4月8日、愛知県勤労会館に於いて、新入生、父母、教職員、来賓多数が列席して、厳粛に挙行されました。

今年度の新入生は、昼夜開講制に伴う夜間主コースの開学などにより、開学以来最高の969名の新入生が入学しました。学部生昼間主

コース793名、同夜間主コース100名、大学院修士課程52名、同博士後期課程2名、編入学生13名、委託生4名、科目等履修生5名。



新入生に告辞する堀井学長



学位記授与式

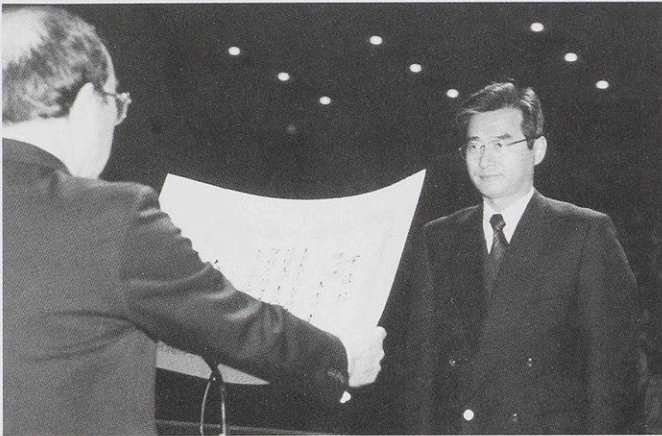
平成9年度 学位記授与式

早春の3月19日、名古屋市民会館において厳粛に挙行されました。

学部卒業生669名、委託生修了生5名、大学院修士課程修了生30名、博士課程では本学初の博士（工学）の学位を取得した2名が、実社会への門出を祝福されて巣立っていきました。

本学初の博士

五十川幸宏さん、李向軍さんが本学博士後期課程で初めての博士号を授与されました。両氏は平成7年、本学に博士後期課程がスタートすると同時に一期生として入学しました。3年間の研究活動を通じてすぐれた論文を作成され、学外者も含めた審査委員会における厳重な審査で学位が認められました。両氏の今後のご活躍を祈ります。



学長から博士号を授与される五十川さん

五十川 幸 宏

論文題目「難加工性材料の温間鍛造技術に関する研究」

本論文は、難加工性材料の温間鍛造において、材料特性、金型特性、潤滑特性を関連づけることの重要性を基礎的な解析と実生産の例を基に解明したものであり、温間鍛造技術への新しい知見と発展の可能性を示した研究です。



博士論文を発表する李さん

李 向 軍

論文題目「半導体レーザを用いたファジィ制御微圧力計に関する研究」

本論文は、通常の方法では測定困難な微小圧力を、半導体レーザ光と半導体位置検出素子(PSD)を用いることにより、高精度で自動測定ができる装置の試作とその特性を理論的及び実験的に明らかにした研究です。

平成9年度学長賞、三好賞 受賞おめでとうございます

学長賞、三好賞が学位記授与式において授与されました。

学長賞(学部)

学 科(専攻)	氏名(出身高校)
機械工学科	尾関由仁(愛知県立江南高校)
	久保 哲(石川県立鹿西高校)
	小林 淳(長野県立松本県ヶ丘高校)
	関 泰宏(札幌市立札幌平岸高校)
	竹内彦之(長野県立篠ノ井高校)
電気工学科	假屋 憲(名古屋市立向陽高校)
建設工学科(土木)	岩村俊幸(愛知県立小坂井高校)
建設工学科(建築)	尾西弘子(和歌山県立星林高校)
	山本哲郎(名城大学附属高校)
応用電子工学科	清水敏弘(岐阜県立各務原高校)

学長賞(大学院)

専 攻	氏 名
機械工学専攻	小栗隆嗣
	田中研治
電気・電子工学専攻	鈴木智也
	森田博樹
建設工学専攻	辻岡裕人
	土田尚子

三好賞(学部)

学 科(専攻)	氏名(出身高校)
機械工学科	加藤源太(岐阜県立岐阜高校)
	黒宮 篤(三重県立白子高校)
電気工学科	栗田淳一(岐阜県立不破高校)
建設工学科(土木)	久保田彩(長野県立岡谷工業高校)
建設工学科(建築)	金 秉燮(韓国ソウル高校)
応用電子工学科	菊池さより(静岡県立御殿場西高校)

(敬称略)

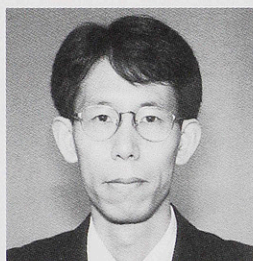


新任教員のみなさん

4月1日付で新しく8名の先生が本学に来られました。教育に研究に新しい風をDITに吹き込まれるものと期待します。自己紹介をして頂きます。

一般教養人文社会教室講師

渡辺 博明 (わたなべ ひろあき)



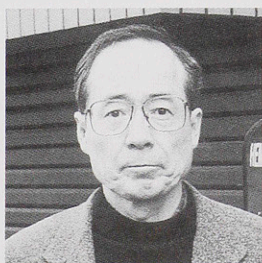
プロフィール

出身大学 名古屋大学大学院
(法学研究科博士後期課程)
学位 法学修士
生年月日 1967年5月1日
趣味 登山、料理

今年度から一般教養科目の政治学を担当することになりました。私の専門は政治学の中でも特に政治過程論といい、実際の政策形成における政党、利益集団、官僚などの役割や影響力を分析することが中心となります。また私は、社会保障政策の分野に関心を持っており、現在は、スウェーデンの年金制度改革をめぐる政治過程の研究に取り組んでいます。講義では、複雑な政治の世界について、難しいことを易しい言葉で解説できるように心がけたいと思います。同時に私自身、理工系科の学生のみなさんに囲まれる中で大いに刺激を受け、視野を広げていきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

一般教養物理学教室教授

逸見 康夫 (へんみ やすお)



プロフィール

出身大学 京都大学大学院
(理学研究科博士課程)
学位 理学博士
最終前歴 京都大学大学院理学研究科物理学第二教室
生年月日 1941年2月26日
趣味 ざる蕎麦、映画、ピンポン(中学の頃鳴らしたが、その後は駄目)
モットー 継続は力なり
関心のある研究テーマ
素粒子測定器の開発
素粒子は目に見えないので、いろいろな方法の測定器を使用して、素粒子の性質を解き明かす訳です。

若者の「理工離れ」の危機が叫ばれている。大学で、実験系の分野で働いてきた筆者も肌で感じられるようになってきた。ラジオ、ハム、オーディオ、マイコンなどを自分で作ったことがあるという経験を持つ元理科大好き少年だった学生は極端に少なくなったようだ。筆者も小学生の頃、電池とエナメル線でモーターを回して遊んだことがある。それは、ゾクゾクする経験であって、今でも脳裏に焼き付いている。しかし、皮肉なことにハイテク技術の出現で、このような手作り装置は魅力がなくなってしまった。さらに、受験戦争のおかげで、中学、高校の理科の時間が少なくなっていると聞く。自然発生的に理科大好き少年を生む生活基盤は益々片隅に追われていくようだ。昔から、科学の進展に寄与してきた偉大な科学者達の原動力は「好奇心」や、「遊びごろ」であつたに違いない。理科大好き少年少女の復活を是非望む。

一般教養外国語教室講師

橋本 博美 (はしもと ひろみ)



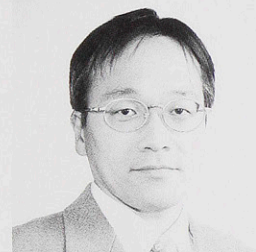
プロフィール

出身大学 南山大学大学院(博士前期課程)
学位 文学修士
最終前歴 十年間、大学非常勤講師をしていました。
生年月日 四緑木星の天秤座
趣味 映画鑑賞、美味しいものの食べ歩き

かつて、美食家として有名な某大物俳優が、名古屋人の味覚を評してこう言いました。「安くて、量が多い料理は『お値打ち』と呼ばれ、名古屋では『お値打ち』が『美味しい』の同意語である」なかなか痛烈な批判ですが、名古屋人に限らず、そして、こと食べ物に限らず、第二次大戦後の日本人は「早い、安い、多い」を、美徳として掲げ、高度経済成長を達成し、その後の経済的、物質的繁栄を築いてきたともいえます。しかし、21世紀を目前にして、そろそろ私たちは、即席に、安直に、そして大量には手に入らないけれど、本当の意味で「美味しいもの」を尊ぶ価値観を見直すべきではないか、と思う今日この頃です。

建設工学科土木工学専攻助教授

堀内 将人 (ほりうち まさと)



プロフィール

出身大学 京都大学大学院
(工学研究科衛生工学専攻修士課程)
学位 博士(工学)
最終前歴 京都大学大学院工学研究科
生年月日 1956年11月28日
趣味 ジョギング、スポーツ全般の観戦

生まれ育ちが大阪、職場が京都で、どっぷりと関西に浸ってきました。やっぱり関西人は笑いが命です。今回、縁あってここ名古屋に職場、生活の場を移すことになり、名古屋の人と会話が楽しめるかどうか不安に思っています。学生の皆さんとしゃべくりするのが大好きですから、気軽に話しかけてきて下さい。専門は、環境工学。主に重金属による土壌・地下水汚染に関する研究を行ってきました。ま



だ着任したばかりで何も大きな事は言えませんが、これまで私が学んできたことを一つでも多く学生の皆さんに伝えていきたいと思っています。環境問題に興味のある方は、ぜひ私の部屋を訪ねてみて下さい。絶対後悔させませんから。

建設工学科建築学専攻講師

光田 恵 (みつだ めぐみ)



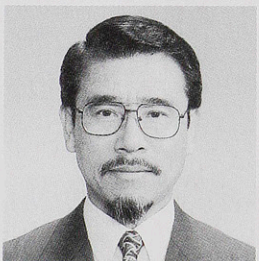
プロフィール

出身大学 奈良女子大学大学院
(人間文化研究科博士課程)
学位 博士(学術)
最終前歴 名古屋工業大学ベンチャー
ビジネスラボラトリー講師
生年月日 1967年12月21日
趣味 スポーツ(プレーするのも観
戦するのも好きです)

今年3月までの7年間、奈良公園の近くに
住んでいました。その前の4年間は琵琶湖の
周辺に住んでいました。観光地ではありますが、
豊かな自然に囲まれた環境で過ごしてき
ましたので、ずいぶんのんびり過ごしてきたよ
うに思います。名古屋での生活にしばらくは
戸惑うこともあるかもしれませんが、一方で刺
激のある生活にわくわくした思いもあります。
どうぞよろしくお願いいたします。

応用電子工学科教授

井上 茂樹 (いのうえ しげき)



プロフィール

出身大学 名古屋大学大学院(工学研
究科修士課程電子工学専攻)

学位取得 おめでとうございます

電気工学科 山田忠比古講師



平成10年3月3
日付けで名古屋
大学から博士(工
学)の学位を取
得。学位論文「気
体中の正イオンおよび中性ガス分子
の拡散に関する研究」

機械工学科 近藤 巖講師



平成10年3月25
日付けで三重大
学から博士(工
学)の学位を取
得。学位論文「超
高圧力処理によるアルミニウム合金
の材料特性の変化」

学位 工学博士
最終前歴 (株)日立製作所映像情報メ
ディア事業部光ストレージ本部
生年月日 1943年7月16日
趣味 音楽鑑賞、ゴルフ

私は28年半日立製作所に勤め、主にFM
ステレオ受信機、CDプレーヤ、CD-ROMド
ライブおよびDVD-ROMドライブの開発・設
計に携わってきました。この度、縁あって本学
応用電子工学科で教鞭を執ることになりまし
た。研究室では放送、通信、マルチメディア関
連を研究テーマで取り上げて行く積もりです。
学生時代は名大オケや初期の名フィルでト
ランペットをやっていたので、これを機に学生
に戻った気持ちで再挑戦しようと(当時欲しく
ても高価で買えなかった)楽器を購入しまし
た。次代を担う若い皆さんと生活を共に出来
ることを楽しみにしております。

応用電子工学科教授

岩田 晃 (いわた あきら)



プロフィール

出身大学 名古屋大学(工学部電気学科)
学位 工学博士
最終前歴 名古屋大学情報処理教育セ
ンター
生年月日 1940年3月
趣味 スポーツ鑑賞、雑学

大学卒業後長年にわたり名古屋大学空電
研究所(現太陽地球環境研究所)に勤めて
おり、地球物理現象の観測のため、北海道か
ら九州まで日本各地や、外国に滞在したこと

があります。余所に行って、あらためて中部地
方の暮らし易さを実感しました。1993年に名
古屋大学情報処理センターに移り、学生さん
と直接に接するようになりましたが、まだまだ
現代の学生気質が今一理解できてません。
1995年からは非常勤講師として当大学に教
えに来ていますが、学生さんは授業中の積極
性が不足していると感じています。知識の獲
得にもっと積極性を発揮して下さい。我々
教員もより一層努力する事ができます。たの
しく大学生活を送れるように、学問、スポーツ
など全力でトライしてみてください。

応用電子工学科教授

坂 貴 (さか たかし)



プロフィール

出身大学 名古屋大学大学院(工学研
究科博士課程応用物理学専
攻)
学位 工学博士
最終前歴 大同特殊鋼株技術開発研究所
生年月日 1946年5月30日
趣味 音楽鑑賞(特にオペラ)、テニス

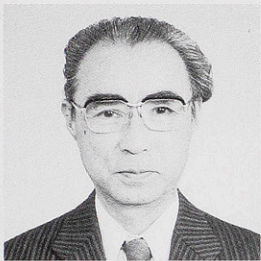
大同工業大学は4つめの職場ですが、今
までの職場でも研究・教育が中心でした。私
の尊敬する先生に「自然はウソをつかない」
と言われた事を信じて研究を行っています。
即ち、実験結果は自然からの信号であり、そ
こに必ず真理が存在するとの考え(教え)で
す。しかし、私のごとく凡人には、なかなかその
真理に繋がる信号を見つける事が出来ませ
ん。その時、己をなぐさめてくれるのが音楽や
下手なテニス、それと少しのお酒です。



退任教員からのメッセージ

本学における永い年月にわたる教育研究活動に終止符を打って3月31日付で7名の先生がご退任になりました。今後のご健康とご活躍をお祈りします。なお、大学を去るに当たり4名の先生が学生の皆さんにメッセージを残しましたので、ご紹介します。

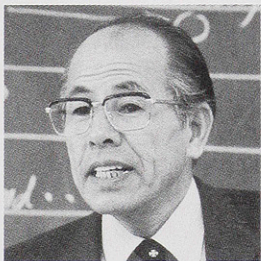
一般教養物理教室教授 福住 靖治



開学以来36年間勤めた大学を去ることになった。開学の当初は日本の高度成長が始まる頃で、大学も日本とともに成長を続けた。初めは校舎も設備も貧弱であったが、われわれはこれから新しい大学を造るのだという意気込みと希望があった。それに比べ、今日の日本社会は成長のいろいろな歪みがふきだし、学生諸君も将来に不安を抱えているかも知れないが、私はこの困難を乗り越えれば必ず明るい未来が拓けてくると信じている。現にいろいろな産業形態がこれからの社会に適応するように変わりつつある。その意味で、現在はこの大学が始まったときと同じ状況にあるといってもよい。どうか若い学生諸君、夢と希望を失わないようにして未来に向かって進んでいって下さい。

一般教養語学教室教授

進藤 謙之助



戦争—敗戦、国家主義—民主主義、生活—学問、個人—全体、……の中で引き裂かれた自己を見つめ思わず身震いする。絶望的状况の中から出発し、絶望的状况の中に去りゆく感。せめて自らの講義を楽しんだこと

を唯一の良き思い出、救いの糧として。さなければ、まさに絶望。伝えたいこと、伝えたい人々、そして伝える自己自身、これら三者が互いに練り上げる無形の芸術作品—それが講義。嗚呼、己んぬる哉、目指す作品創造のために講義をやり直す勇気を一度も持ち合わせなかったのである。所詮、これが人間というものか。「若者よ、大志を貫け、人間の使命達成のために!」ウィリアム・クラーク

建設工学科建築学専攻教授

宮路 榮二



いわゆる戦中派である私が今まで辿ってきた道を思い起こすと、見方によって長いとも短いとも言えます。技術革新、環境保全と時代の先端を担って技術開発を追求した期間は、充実した幸せな時代でした。それに反して、将来の目標は漠として霧に包まれ、海図のない航海にも例えられます。しかし変革の荒波が如何に大きく、見通しが難かしくても、常に基本に則って舵を切れば輝しい成果を手にすることができるでしょう。栄光は待ち受けるのではなく、自ら掴み取るものだと思います。諸君らが21世紀を築くための基礎となる悔のない学生生活を送られることを希望します。

応用電子工学科教授 稲垣 米一



私は平成元年より本学に勤めましてから、丁度9年間「生体電子工学」の研究をおこなって来ました。モノ中心の科学、技術から人間中心の科学・技術への転換を心がけました。また、卒業研究ゼミでは「生体工学」をテキストとして採用致しました。理工系の技術者には、どの分野に進んでも、人間や生体についての知識が絶対に必要であると思ったからです。現在、地球規模の環境問題が発生し、すでに成長の限界に達し、物質文明の行きづまりが見えて来ました。そこで、私はこの紙上を借りて、人間や環境にやさしい技術開発を目指す「人間技術学」を提唱致したいと思います。

一般教養人文教室教授

前田 利男



応用電子工学科教授 美濱 和弘



応用電子工学科教授 金児 壮至



こんにちは、下島研

～建設工学科 下島榮一教授～



水のサンプルを横にして、下島榮一教授

砂 漠

中国北西部のゴビ砂漠の端に立っている。500 k m西に行くと、有名な敦煌の遺跡がある。冷え切った空気と乾いた大地。あちこちに地中から析出した塩類が灰色にこびりついて、草木も生えない荒涼とした大地、そこに下島先生がいる。

誰もいない砂丘で、一人、スコップで穴を掘り、砂塵を受けながら、土壌水分と温度を計り、蒸発を観測する。冬場の凍上のため、マットレスの上を歩いているよう。ときには、いわゆる砂嵐にも遭遇する。

これは、中国科学院蘭州大気物理科学研究所との合同調査である。

下島先生の研究テーマは、地表近くで起こる水分の移動、すなわち浸透や蒸発の様子を調べたり、水の成分がどう変化するかといったことである。砂漠はこの研究には格好の舞台である。ゴビ砂漠だけでは足りない。下島先生は、いずれ西オーストラリアの砂漠に出かけたいと考えている。数年前から日本学術振興会の援助を得て、オーストラリア科学産業研究機構（CSIRO）のジェフ

リー・ターナー博士と共同研究しており、実際に砂漠に出かけて、現地と一緒にデータをとって分析し研究したいと思っている。

水 ・ 水 ・ 水

さて、ここ下島先生の研究室には「水」が溢れている。毎週、神通川支流の高原川（岐阜と富山の県境）から採取した水のサンプルが50本も到着する。もう3年間も続いている。到着したサンプル水は毎週大学院生の田口さんが分析用の小さな容器に移し替える。田口さんは学部生時代からもう2年もこの仕事をやっているそう。研究とは地味なものですね、と感心した。田口さんはこの試料をイオンクロマトアナライザーというイオン分析器にセットする。雨水が土壌に浸透して川に流れだした水質の化学分析をし、水の移動の仕組みを研究しているそうである。（ところで、下島研には現在、院生が3人、卒研生が9人いる。記者が訪問したときは、4月初めで院生の3人が研究に取り組んでいた。）

下島研には、この他にもいろんな水がやってくる。和歌山県日高郡由良町にある亀裂堆積岩の山に掘られたトンネルに毎月直接出向いて水採取してくる。こちらの方はもう10年間も続いている。阪神・淡路大震災の時には、変化がすぐ出たそうである。

雨が降ったときは、大学周辺でも水採取する。こちらは卒研用のサンプルだそう。酸性雨であることが少ないという。

学（すいもんがく）」という分野に属する。聞き慣れないことばだと言ったら、「天文学」の「天」を「水」に替えれば、大体のイメージはつかめるでしょうとの答えが返ってきた。要は、地球上の水循環を研究することだそう。

大気と大地の接する部分に起こる現象の解明は、学際領域の学問分野のひとつで、下島先生は日本でも数少ないこの分野の研究者の1人である。学際領域だけに、専門の土木以外の学問分野の研究者との交流が多い。今は名古屋大学の大気水圏科学研究所や富山県立大学の環境工学研究室と共同で研究しているそうである。

自 慢 の 装 置

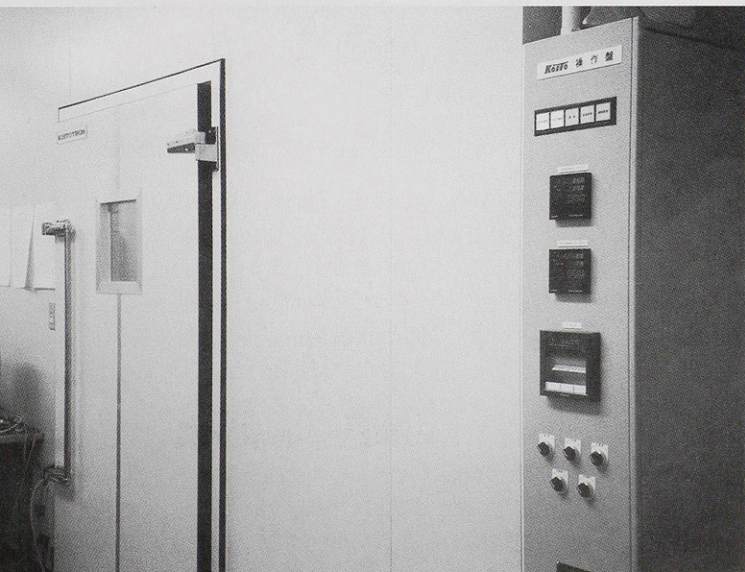
下島研の実験室は白水校舎4号館の4階にある。この実験室の中にはさらに10畳ほどの実験室が入っている。箱を開けたら箱があった、という感じである。これが「環境試験室」で、文部省の補助で平成5年に設置された設備である。空気を外部から流し込みながらも室内の温度と湿度が精密にコントロールできる装置で、湿度までコントロールできるものは近隣の大学で持っているところがないそうである。もちろんコンピュータや分析装置がいっぱい付いている。自慢の装置といえるかも知れない。この装置を使って、乾燥・半乾燥地域での塩類集積が土壌の溶出等の過程を経てどのような仕組みで起こるのか、また塩類集積が蒸発にどのような影響を及ぼすのか、実験を行っている。砂漠まで行かなくても、この小さな実験室でシミュレーションができるのである。

自然を対象にした研究活動では思わぬ事も起こる。この冬には、水の採取のために雪に埋もれた山の中で、川に落ちてあわや遭難ということもあったそう。

これからも自然相手の研究が続く。ご自愛を祈って研究室を後にした。

水 文 学

先生の学問は「水文



環境試験室 扉を開けると別世界。手前は操作盤

DIT同友会（退職職員の会）



去る1月31日名古屋国際ホテルにて、退職された教職員の方々と大学との関わり合いを深めていくための会（DIT同友会）が発足、開催されました。当日は50名の出席者があり、新キャンパス構想、教育の充実など学園が今取り組んでいる大学の魅力化について理事長・学長から説明されたほか大同病院の小森義隆先生をお迎えして「高齢者の健康管理」に関する講演を行うなど盛りだくさんの内容で行われました。講演後は親睦会が行われ、懐かしい顔があつまり、なごやかな雰囲気の中で、在職当時の思い出話や大学の将来構想についての話で盛り上がり盛況のうちに終わりました。（人事室提供）

日本機械学会東海支部総会・講演会 学生員卒業研究発表講演会



日本機械学会東海支部主催の第47期総会・学術講演会と日本機械学会東海学生会主催の第29回学生員卒業研究発表講演会が3月6日～7日の2日間にわたって、本学大同校舎で開催され、690余名の全国の学会関係者が本学に訪れました。

総会・講演会では、中島浩衛教授が「21世紀に向けて新しい出発点に立った環境問題と生産技術革新」と題して特別講演を行いました。学術講演発表としては小森和武助教授による「引抜き加工時のシエブクラックの数値シミュレーション」など9編の発表を行いました。また、学生員による卒業研究発表講演会には、立松貴博、永田充両君による「銅めっき応力測定法に対する画像処理法の適用」の卒業研究など6編を発表し、他大学の学生員からの質問に熱心に応えていました。

アーヘン工科大学から来訪

3月16日、本学の提携大学であるドイツのアーヘン工科大学（正式名称はRheinisch-Westfälische Technische Hochschule Aachen）からマンフレッド・スパイデル教授（建築学科）が本学に来訪されました。



教授は、アーヘン工科大学において日本の大学との交流を担当しておられ、今回は本年末に予定されている交流協定の延長について話し合うために来訪されました。堀井学長・細井副学長をはじめ関係者と協定延長の意志について確認を行った後、両大学の教育研究の状況などについて、活発な情報交換が行われました。教授は本学の新しいキャンパスのイメージ図に興味を持ち、いろいろ質問をされていました。

アーヘン工科大学は学生3万5千人余を擁するドイツ有数の総合大学です。本学は平成2年に学術交流協定を締結しており、以来7年間にわたり研究面・教育面での交流を行っています。機械工学科が数年にわたり共同研究を行っている他、アーヘン工科大学の建築学教授による公開講演会を実施したこともあります。

学生の交流では、数年前までは夏季短期留学で同大学を訪問していました。また、本学の建設工学専攻の大学院生が数ヶ月間滞在して研究交流し、アーヘン工科大学からも数名の学生が長期本学に滞在して研究を行うなどしています。

100 余名の受講生で大好評 公開講座



本学主催第15回目公開講座には、地元だけでなく遠く多治見や四日市からの参加者を含めて100名を越す一般市民の受講者が集まりました。1時限の「整膚」健康法では100余名の受講生が集まり、徐堅先生の指導よろしく老若男女の受講生の笑い声やかけ声が9403教室の窓ガラスに響きわたるなど、大好評でした。今回の公開講座は「健康と家の安全」と称して、3月28日から毎週土曜日の4日間、1時限（10：00～11：15）に名古屋整膚学院長 徐堅先生を迎えて「整膚」健康法を、2時限（11：25～12：40）は前半の2日間を、「我が家の地震対策」堀井憲爾学長、建設工学科建築学専攻 山本俊彦教授が担当、後半の2日間は、非常勤講師でもある豊田工業高等専門学校 垣鍔直教授により、「人間の生活と健康について」の講義が行われました。講義のあとは、講師の先生方は受講者から次から次ぎへと質問攻めにあっていました。

名古屋市立南光中学校生徒 情報処理センターなどで 職場体験

名古屋市立南光中学校（南区浜田町4-119）の生徒3名が、2月20日、本学で職場体験をしました。

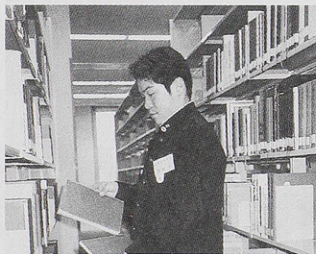
これは、直接職場体験を通じて生徒の育成を目指すこと「生き方指導」を目的として実施されたもので、3名の生徒はそれぞれ、情報処理センターに新井一輝君、図書館に安藤嘉宏君、学生室に近藤章君が配属されました。3人とも最初の頃は緊張した面持ちでしたが、時間とともに和やかになり、本学職員と談笑するなど打ち解けた一日を過ごすことができました。

後日、3人の生徒さんから次のようなお礼の手紙が届きました。

「僕たち3人のために、お忙しい中お時間をあけて頂き有り難うございました。僕たちは、一人一人に仕事場を与えて下さったことに、本当に感謝の心でいっぱいです。有り難うございました。」



近藤 幸君



安藤嘉宏君



新井一輝君

盛大に企業懇談会を開催

2月24日

於名古屋国際ホテル

本学をより理解していただくために、企業との懇談会が開催されました。当日はあいにくの雨天にもかかわらず、東京や大阪からの出席も含め170余社から220名の経営者・管理者の出席を得ました。各社の会長・社長といった首脳クラスも多数見えられ、盛大な会となりました。

懇談会では、堀井学長の挨拶に続いて、細井副学長から本学が取り組んでいる改革の状況について報告し、続いて太田就職指導部長から新年度の就職指導について説明を行いました。

その後、中部地域を代表する経済アナリストである東海総合研究所代表取締役社長の水谷研治氏から「激動する経済の正体」と題する講演が行われました。

講演の後は軽食パーティが行われ、企業の方々と本学教員との間で、就職や研究面での連携等について活発な交流が行われました。

先生方の前には面談を希望する企業の方々と順番待ちが出るほどの盛況でした。

《水谷研治氏の講演概要》

不況は構造的なもの、
回復に頼ることは止めよ

今まで世界でもっとも高い経済成長の地域として注目を集めてきた東南アジア諸国が、昨年半ばから突然、危機的といってもいいほどの深刻な不況に陥った。誰も予測していなかった事態が起こったのである。これは、資本力のない発展途上国が外国からの借金で投資を続け、見かけ上の経済発展を図ってきたのが、返済不安が生じたことから外国が金を貸さなくなったことに直接の原因がある。外国から金が入ってこなくなると返済するドルにも困ることとなり、やむをえず自国通貨（タイならバーツ）を売ってドルを買う。このことにより自国通貨が暴落し、それがますます不安を増幅させて、それまで貸してくれた外国金融機関も次々と融資をストップすることとなる。かくして、これまで経済優等生と思われた国々も見通しのない不況に陥ってしまった。こ



れは、実際の経済力を超えて借金によって成長を図ったために、そのツケが回ってきて、かえって深刻な状況に陥ったのである。

過大な借金で経営することの危険は一般家庭の家計でも同じである。サラリーローンの返済ができなくなって一家離散や自己破産に陥る例は今日少くない。そして、それは企業においても全く同じである。

今日の我が国経済の不況に対し何とか手を打つように政府に対策を求める声大きい。しかし、今日の日本経済は生産力が過大になっているので、公共事業を拡大しても、その場限りの効果しかなく、投資が投資を生むサイクルは生じず、翌年には先行した消費の分のツケが回ってきて、却って成長率の低下を招くだけである。減税効果についても同様である。つまり、生産力過大という構造的な原因による経済不況なので、政策で簡単に良くなる性質のものではない。

東南アジアの経済破綻の日本への影響は、むしろこれから出てくる。また、世界の経済が何とかなっているのはアメリカ経済の好況によるものであるが、アメリカとても貿易収支は大幅な赤字を続けており、対外借金は膨大になっており、不安がある。

このように考えると、相当長期にわたって経済の回復はないと覚悟することが経営者にも国民一般にも必要である。

もはや右肩上がりを前提にしたものの考え方や発想では生き抜くことはできない。1人1人が今までと違う考え方に立てるかどうか、企業の将来を決める。

このような中にあっては経営者の真のリーダーシップが問われる。古い時代の感覚を持った人は多い。それらの人々の反対を押し切って新しい指針を示し、断固として実行することが企業存続に必要である。

第33回宴祭

月9のMIKIが来る!

テーマ Potential
～限界を越えろ!!～



大学祭実行委員会
委員長
上田正文さん

今年で宴祭も第33回を迎えました。5月24日から5月31日まで行います。皆さんはもうご存知だと思いますが、24日は美流輝移、28日には前夜祭、30、31には本祭を行います。本祭と言っても、様々なものがあり、特に皆さんが、一番気にしているのが今年の芸能人だと思っています。今年は、あの月9ドラマ「Days」に出ていた VANITY の MIKI が来ます。なんと実は、CD もたくさん出ています。皆さんご存知でしたか?是非、CD を買って、覚えて、来て、歌って下さい。買えない人は持っている人に借りて聴いてね。

柴田商店街「わいWAI 通り」完成セレモニーに吹奏楽団らが参加

柴田商店街振興組合が商業地整備モデル地区として柴田町2丁目から5丁目まで「わい WAI 通り」コミュニティ道路として完成、その完成記念セレモニーが、2月15日(日)ハートフル白水仙側駐車場で行われ、本学からも大学祭実行委員会、アルバム委員会、吹奏楽団が協力しました。

演奏の機会があれば、協力したい

大同工業大学吹奏楽団

我が団は演奏する機会が少ないので、今回の行事に参加しました。定期試験終了3日後で、満足な練習が出来ないので、選曲にあたっては定期演奏会での曲目から選んで、試験期間中にも拘わらず練習をしました。これからも機会があれば地域の行事にも参加し、頑張りたいと思います。



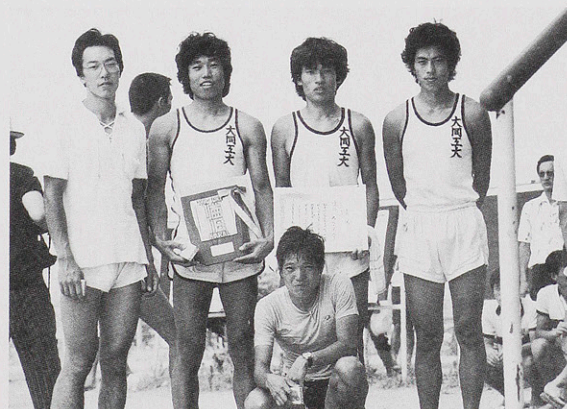
柴田商店街「わい WAI 通り」

クラブ紹介

「漕艇部」

再び、全日本決勝を目指して

大同工大漕艇部コーチ 岩佐 勉氏



関西ボート選手権でシェル・フォア優勝(昭和50年)

大同工大の歴史はボート部が創ってきたと言っても良いかもしれません。まだ、無名の大同工大の名を全国に知らしめたのは、他ならぬボート部だったからです。初レース(1964.9)が全日本準決勝3位と決勝戦には進めませんでしたが、2年目も準決勝3位、4年目には全日本2位になりました。

35年余の歴史の中には、インカレ4位、全日本4位、関西選手権ではイトで優勝するなど、大学にある多くのクラブの内でも、特に優秀な成績を納めつつ今日に至っています。

また、大同錦艇会(OB)は結成から24年が経ち、全日本実業団選手権では、舵無しフォアなどで、優勝3回と云う成績を納めるなど、今なお活動を続けています。現役とOBが競い合いつつ、

常に前進を目指して、日本のボート界で頑張っています。まさに大同工大の歴史はボート部が創り、大学を引っ張って来たと自負しています。入学されました学生の皆さん、大同工大の歴史の中に入れてみませんか。

あめんぼうの様に水面をすいすいと。

「ダンス部」



96 M大林里恵さんファイナリスト(準決勝)に

去る1月11日、中部日本学生競技ダンス連盟主催の同選手権大会学年別戦に出場し、1年生クイックステップの部で、ファイナリスト(finalist)に輝きました。



インターンシップに参加

文部省、通産省、労働省が連携して推進を図っているインターンシップ・モデルプロジェクトに本学から、3名の学生が参加しました。

中部電力株式会社に、3月9日から2週間、機械工学科 浅田英雄さん、機械工学専攻(修士) 浅井健史さんのお二人が、また電気工学科 小林篤さんが、東邦ガス株式会社に3月9日から3週間の実習をし、貴重な体験をしました。

インターンシップは、学生が、在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うことです。産学連携による人材育成の新しい教育方法として、文部・通産・労働の三省が推進に乗り出しました。

今回は中部通産局が東海地域の大学・企業に呼びかけて、春休みに試験的に行ったもので、全部で25大学240名の学部生・大学院生が約100社の企業で実習体験をしました。

インターンシップを終えて



97MM01
浅井健史さん

今回私は中部電力の碧南火力発電所で約二週間お世話になりました。私たちの生活に欠かせない電気を供給したり、電気を生み出す過程で発生する環境問題などに取り組む現場や社員と直に接したのですが、社員の仕事に対する姿勢や知識の豊富さにただ感心することはばかりで、現在の私の学習姿勢に大きな刺激を与えています。また、大学の講義などで得た知識を更に深めたり、将来の職場について深く考えることもできたりと、非常に有意義な時間を過ごすことができました。このような素晴らしい実習に今後皆さんが積極的に参加することを是非お勧めします。

人 事

◇新任◇ 平成10.4.1付

●教授／逸見康夫(一般教養物理教室)、岩田晃(応用電子工学科)、井上茂樹(応用

キャンパス カレンダー

4月

21日(火) 日本育英会奨学生受領確認・
学内貸与奨学生受領確認開始
26日(日) 後援会総会
29日(水) 新入生歓迎会

5月

9日(土) 日本育英会奨学生受領確認・
学内貸与奨学生受領確認終了
10日(日) 開学記念日
15日(金) 「履修状況確認書」配付日
24日(日) 大学祭 仮装行列 美流輝移
25日(月) 大学祭 柴田仮装行列
26日(火) 大学祭 カラオケ大会

クリーン
キャンパス
ちょっと歩いて
ゴミは
ゴミ箱へ



6月

1日(月) 代休講日
6日(土) クラブ対抗
新入生歓迎ボーリング大会
25日(木) 前期学生代表者会議

7月

9日(木) 補講日
10日(金) 補講日
14日(火) 補講日
16日(木) 補講日
17日(金) 補講日 前期授業最終日
21日(火) 前期定期試験開始
31日(金) 前期定期試験終了



27日(水) 大学祭 It's show time !!
28日(木) 大学祭 前夜祭
29日(金) 大学祭 ソフトボール大会
30日(土) 大学祭 本祭
31日(日) 大学祭 本祭

電子工学科)、坂貴(応用電子工学科)、●
助教授／堀内将人(建設工学科土木工学
専攻)、●講師／渡辺博明(一般教養人文
社会教室)、橋本博美(一般教養外国語教
室)、光田恵(建設工学科建築学専攻)

●書記／後藤輝巳(本部事務局財務部経
理室)、伊藤雅士(大学事務局学生室)

●嘱託職員／三浦真澄(本部事務局総務
部庶務室)、関茂夫(本部事務局総務部庶
務室)、加藤真人(本部事務局総務部庶務
室)、松原清彦(大学事務局教務室・夜間主
責任者)、瀬尾實(大学事務局学生室)、平
林佳代子(大学事務局入試室)、大林重夫
(大学事務局図書館事務室)、武末文治(大
学事務局図書館事務室)、(H10.3.16付)
田中裕昭(応用電子工学科)

●臨時補助員／青木正行(一般教養物理
教室)、旗秀光(機械工学科)、池田充(機械
工学科)、市川俊成(機械工学科)、二瓶義
広(建設工学科土木工学専攻)、廣石忠明
(建設工学科建築学専攻)

◇昇任◇ 平成10.4.1付

●教授／青山正治(機械工学科)、●教授
／酒造敏廣(建設工学科土木工学専攻)、
●助教授／松浦均(教職課程)

◇退職◇ 平成10.3.31付

●教授／前田利男(一般教養人文教室)、
進藤謙之助(一般教養外国語教室)、福住
靖治(一般教養物理教室)、宮路榮二(建設

工学科建築学専攻)、美濱和弘(応用電子
工学科)、稲垣米一(応用電子工学科)、金
児壮至(応用電子工学科)、●書記／足立
房枝(本部事務局総務部庶務室)、桜井美
智子(本部事務局総務部庶務室)、安藤哲
夫(大同高等学校事務室)、●嘱託職員／
持原廣美(本部事務局総務部庶務室)、濱
口照代(本部事務局総務部庶務室)、久米
壽夫(本部事務局総務部庶務室)、篠田弘
夫(応用電子工学科)、陣内まりや(大学事
務局入試室)、橋本絵里(大学事務局大同
事務分室)、●臨時補助員／藤田幸也(一
般教養物理教室)、草野卓(機械工学科)、
小林秀樹(機械工学科)、犀川直行(機械工
学科)、平沼檀(建設工学科土木工学専攻)、
森島靖夫(建設工学科建築学専攻)

◇称号◇ 平成10.4.1付

●名誉教授／前田利男(一般教養人文教
室)、進藤謙之助(一般教養外国語教室)、
福住靖治(一般教養物理教室)

◇委嘱◇ 平成10.4.1付

●客員教授／末松安晴、中井三留、小川明、
●大学院客員教授(機械工学専攻)／西田
義則、岡部道生、●大学院客員教授(電気・
電子工学専攻)／三留秀人、五十嵐一男、
安田匡一郎、柳澤雅明

桃介没後60周年を記念して

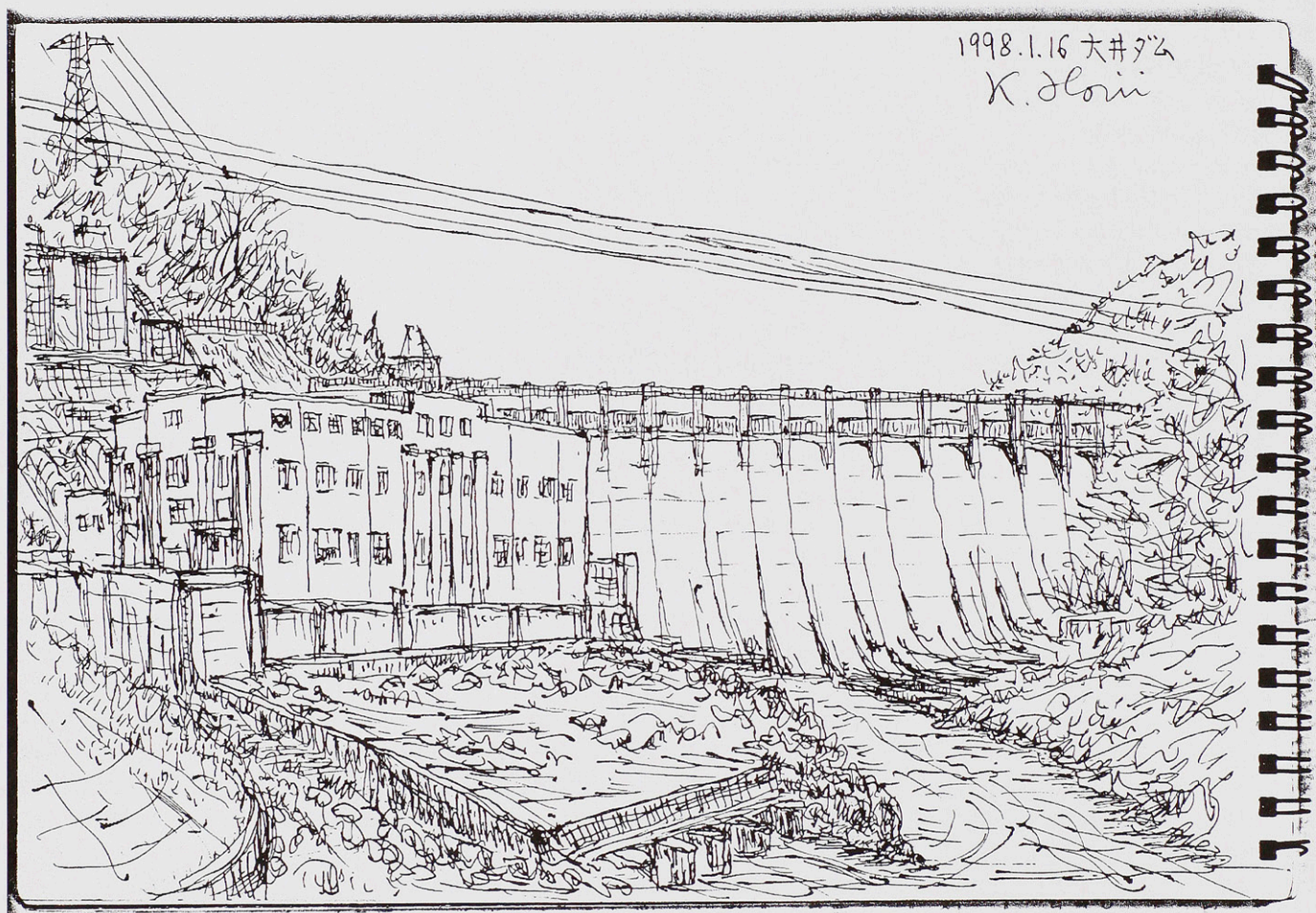
「福沢桃介の生涯と 大同学園発祥の由来」

学長 堀井 憲 爾

木曽川水力発電の開発にはじまり、中京地区産業の発展の基礎を築いた一代の風雲児、福沢桃介は又、大同学園の創立にも深く関わった。いわば学祖ともいえる偉人である。没60周年を記念して、その生涯を紹介する。



桃介が大正13年にアメリカのユニオン大学から名誉学位を受けたときの肖像画から石川太郎元教授が模写したもの



木曽川をささぎる大井発電所ダムの威容

桃介の青年期

明治元年、埼玉の農家に生まれながら、幼少の頃より秀才の誉れ高かった桃介は、郷里の人達の嘱望を担って上京し、慶応義塾に学ぶ。昼は遊び回りながら、皆の寝ている夜中に勉強し、優秀な成績を上げて同僚を驚かせたり、運動会で派手な服装で人目を引くなど、

何かと目立つ存在であつたらしい。

塾長の福沢諭吉に認められ、明治20年卒業と同時に諭吉の次女房子と婚約し入婿することになる。その代償としてアメリカ留学を許される。ニューヨークとボストンで語学の勉強と、ペンシルバニア鉄道会社で実習を終え、2年9ヶ月後に帰国する。これらの経験が、後年の事業活動で大いに役立つことになる。

明治22年帰国後房子と結婚し、北海道炭

鉱鉄道に入社する。北海道や東京で社員として懸命に働くが、5年目に肺の病に倒れる。当時の肺結核は死病としておそれられていた。伝染を防ぐため一人東京を離れて大磯で療養生活を送ることになる。

株取引で大儲けをし
事業に手を出す

病の床でも桃介は、生活自立のためにと株の取引をはじめた。経済界の動きや業績を徹底的に調べた。当時は日清戦役に続く好景気で、多くの企業が生まれ育つときであった。千円の元手を運用して忽ち十万円の大金を得た。株価のピークで売り抜ける素早さは、桃介独特の早わざであった。そのうちに健康も回復し、再び東京で活動をはじめることになる。

明治32年に丸三商会という貿易商社を設立するが、鉄道枕木の大きな取引に失敗して倒産し、出資者の諭吉に大目玉を食らったりする。その後再び北海道炭鉱鉄道に入社し、支配人として腕を振るう。かたわら株取引でも成功し、300万円ともいわれる大金を手にする。この頃は日露戦役の勝利の後、わが国に本格的資本主義のバブル経済が起こったときであった。株暴落で多くの相場師が没落するなか、桃介はきっぱりと株から手を引いた。

株取引は所詮は浮き沈みの虚業に過ぎないとの思いから、手にした大金を事業に投資しはじめた。明治40年頃のことであった。慶応義塾の後輩、松永安左衛門という片腕を得て、紡績、電灯、ガス、鉄道などのいろいろな事業に乗り出し、次々と会社を設立していった。

木曽川に水力発電を夢見る

「男だてならあの木曽川の流れる水止めてみよ」と木曽節にある。山から木を筏で運ぶだけだった木曽川をせき止めて、水力発電をするという夢は、事業家としての桃介の一生を決めるものであった。桃介が最初に発電に着目した明治30年代は、小さな石炭火力発電が都会にあって、家々に電灯をとぼしている程度であった。明治の終わり頃から大正にかけて、各地で水力発電がはじまり、桃介も木曽川の水力開発に取り組んだ。中でもわが国最初の本格的ダム式の大井発電所の建設は、台風や関東大震災の余波を受けて3年余の歳月を費やした。日本最初の本格的な外資導入のため、アメリカを説得旅行するなどして、遂に大正13年、名古屋と大阪に至る送電線と共に、木曽川水力開発は完成した。この間に設立した大同電力株式会社が、今日の中部電力、関西電力両社の礎となった。

当時、桃介に常に寄り添って、貞という女性がいた。東京で売れっ子の芸者から、オッペケベ節の役者、川上音次郎と結ばれ、女優としても一世を風靡したが、40才で音次郎と死別している。貞は桃介と共に木曽川工事の現地の山荘に泊まり込み、谷底のダム現場へ降りるゴンドラにも率先して乗り込んで、工事の人達を励ましたという。当時の山荘は、南木曽の右岸に桃介記念館として公開されている。貞は桃介の後半生の伴侶となって尽くし、昭和21年に75才の天寿を全うしている。

電力を基に産業を起こす

さて、木曽川から莫大な電力を生み出したものの、これを有効に使うのに苦労した。名古屋の花街を不夜城のように照らし出したが、電灯だけでは不十分。桃介は大阪まで送電線を伸ばして消費拡大の努力もした。

東京から名古屋、大阪を電気鉄道で結ぶ大構想にも手をつけた。当時、東海道線を汽車が走っていたのに対し、今日の新幹線に匹敵する大計画であった。結局、名古屋と豊橋間の今日の名鉄本線を作ったところで終わる。この他に電気を使う多くの産業を起こすが、電気製鋼所の設立こそその中心であった。

大同製鋼の誕生

鉄鋼石を石炭と混ぜて炉の中で燃やして溶かせば鉄鉄ができ、これを精製して鋼ができるが、これは質が悪く、エンジンや車軸のような強度を必要とするところには使えない。これに更に、ニッケル、マンガン、クロームなどを精密にコントロールして溶かし込んで強靱な鋼鉄を作るには電気の出す熱を使う必要がある。桃介は下出民義らと計り、電気製鋼を思い立ったものの、この完成までには随分の苦労があった。寒川、川崎舎ら多くの技術者の努力の末、大正5年に我が国初の電気製鋼が完成し、株電気製鋼所が設立された。同社は大きく成長し、後に大同製鋼となり、さらに現在の大同特殊鋼となった。

桃介の企業家精神

桃介は中部を中心に関西、北陸、四国、九州の各地に水力発電を開発し、電鉄、製鋼、ガス、化学工業など数多くの会社を設立した。その盟友となって活躍した松永安左衛門は、戦後も電力の鬼となってわが国の電力業界に君臨した。

桃介の特徴は、株取引にも見られたようにデータの調査、分析に基づく先見性にある。単なる勘だけではない。産業の基幹エネルギーとしての電力に目をつけ、その長距離輸送の特質を送電線によって見事に発揮させた。電力システムの先進国アメリカに乗り込み、わが国の水力の潜在力とその産業への活用を説いて、資金を獲得するという先見性、国際性はまさに驚歎に値する。

明治45年には、千葉県選出の代議士として政治にも首を突っ込み、持ち前の話し上手で活躍した。しかし駆け引きと表裏の多い政治の世界が性に合わなかったか、早々と手を引いている。

桃介の死と大同学園の発祥

電力王として名を成した桃介は、引き際も鮮やかで、60才にして一線から引退した。時は満州事変から次第に戦時色が強まる中、企業の統制、国家管理が進み、各地の電力会



名古屋市内覚王山にある追憶碑

社も日本発送電という会社に統合されていった。渋谷の山荘に余生を送る桃介の目には、日本帝国の行末が見えていたことであろう。

昭和13年2月15日、対戦の惨禍を見ることなく70才で世を去った。桃介の墓は、房子と共に東京の多摩霊園と京都の大谷本廟の墓地にある。桃介の像や碑は全国各地にあるが、大井ダムには紀功碑、その近くのささなみ公園には銅像、名古屋市のでんきの科学館には大理石像があり、名古屋の覚王山の葬祭殿前庭には、下出民義らが建てた追憶碑がある。

過日、筆者は大井ダムを見学した。ダム堤上の通路正面の壁には、諭吉の立派なレリーフ像がはめこまれている。その脇の碑の裏側には、工事の責任者から事務担当者、更にはアメリカから資金提供者に至る13名のレリーフ像があり、その右端隅に桃介自身のレリーフが入っている。桃介の師への深い思いと共に、現場の人々に至るまでの暖かい気配りがあることがわかれ、その人柄に感銘した。

桃介は教育の振興にも熱心で、母校慶応義塾をはじめ大学などに多額の寄付をしている。特に、理工学が産業の糧として将来の日本に必要なことを痛感していた。桃介の死の翌年、大同製鋼の下出義雄社長が、大同学園の前進、大同工業教育財団を設立した。生前の桃介にもこの計画が伝えられており、桃介からは熱い賛同と激励の言葉があったといわれている。

あとがき

桃介没60年の記念すべき年当たり、彼の企業家精神がいま、大同学園を巣立つ若人によりみがえり、日本経済が活力を発揮する礎石となることを切に願うものである。なお、桃介の人物画は、本学元教授の石川太郎氏の作を引用した。その他本稿をまとめるのに、大同特殊鋼株および中部電力株から多くの資料を提供されたことを付記する。

情報処理センター

<DICNETの世界へようこそ>

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

本学には皆さんが入学と同時に利用できるパソコンが200台以上あります。これらのパソコンはすべてキャンパスネットワーク(DICNET)に接続しており、電子メールやインターネットも利用できます。

パソコンは情報処理センター(大同校舎3号館と白水校舎4号館)の演習室とオープン室、サテライト(大同・滝春・白水3号館の各自習室と図書館)にあります。オープン室とサテライトは自由に利用できるほか、演習室も授業で利用していない時は利用できます。

1) 利用方法について

パソコンの利用に必要なルールやソフトの利用方法を情報処理センター発行のハンドブックに掲載しています。売店でお買い求めいただき(1冊200円)、ご利用下さい。

2) 講習会について

年間を通して、計算機利用についての講習会(電子メール・ワープロ・表計算etc)を開催する予定です。掲示等で案内をしますのでぜひご参加下さい。

3) 延長利用について

延長利用の申請をすると、開館時間外でも、大同・白水校舎の演習室とオープン室は、午後10時までご利用になれます。

図書館

ご存知ですか? 皆さん

一文献の探し方(入門編)

先回に続き、オンラインおよびCD-ROMを利用した文献の検索方法をご紹介します。

1. オンラインシステム「JOIS-IV」

(1) ○○に関する文献検索

《キーワード検索》

例) プラスチックの再利用について

① 検索の準備

- ・JOISと接続し、利用者番号とパスワードを入力して、データベースを選択する。
- ・検索語(キーワード)を抽出して、検索式(and: 共に含有、or: どちらか含有の意)を作成する。

例) プラスチック and (再利用 or リサイクル)

② 検索の実行(手順)

- ・「U:」の後に検索語、及び検索式を入力すると「S:」で該当文献数(検索件数)を表示する。

例) [1] U: プラスチック(検索語を入力)

S: ○○件(システムからの応答)

[2] U: 再利用 or リサイクル(追加語)

S: ○○件

[3] U: [1] and [2] (検索式を入力)

S: ○○件([]は項目番号)

- ・文献のタイトルリストを出力し、内容を検討する。

③ 検索の確認と印刷、または再検索

- ・詳細情報(抄録)を数件出力して、文献内容を確認し、検索内容の適否を判断する。
- ・適当な文献があれば、抄録リストを印刷する。
- ・不適当な文献が多い場合、または検索出力件数が多い場合は「and」を付け検索語を追加し、上記手順を繰り返して適当文献を検索する。(再検索)

④ 検索の終了

- ・「¥END」を入力し、システムの接続を停止する。

⑤ 文献の入手

- ・出力文献の抄録リストの中から、必要な文献を選択し、原文のコピーを入手する。

(2) ○○さんの発表文献の調査

《著者名検索》

例) 西沢潤一氏(東北大)の発表論文

① 検索の実行

- ・S: の後に「AU:」を付け著者名をカナ文字、または英字で入力すると、該当文献数を表示する。

例) [1] U: AU: ニシザワ ジュンイチ (著者名)

S: ○○件(システムからの応答)

[2] U: AA: トウホクダイ(所属機関名)

S: ○○件

[3] U: [1] and [2] (同姓同名を識別)

S: ○○件

② 検索内容の確認以降は1. (1) ③の手順と同様

(3) ○○雑誌掲載文献の調査

《資料名検索》

例) 「化学工業」誌に掲載された文献

① 検索の実行

- ・S: の後に「JT:」を付け雑誌名を用語で区切ってローマ字、または資料番号を入力すると、文献件数を表示する。(用語の間に(W)を入れる)

例) [1] U: JT:

KAGAKU(W)KOUGYOU

S: ○○件(システムからの応答)

② 検索内容の確認以後は1. (1) ③の手順と同様

2. 分野別 CD-ROM(カウンターで貸出)

(1) キーワード検索



① 検索の準備

- ・CD-ROMをドライブにセットし、アイコンをダブルクリックすると「検索画面」を表示する。

② 検索の実行

- ・検索画面の「キーワード欄」に検索語、及び検索式を入力し、「検索ボタン」をクリックすると該当項目の件数、及び全体の検索件数を表示する。
- ・「表示ボタン」をクリックするとタイトルリストを表示する。リストの中で適当な文献があれば、カーソルを合わせ「表示切り替えボタン」をクリックすると、そのタイトルの文献抄録を表示する。

③ 検索内容の確認と印刷(準備中)及び再検索

- ・1. (1) ③の同様な手順で検索、及び印刷する。
- ・再検索は検索語の追加、または各項目欄に日本語あるいは年度等の条件を付加して件数を絞る。

④ 検索の終了とCD-ROMの返却

- ・画面の「CD Answerの終了」をクリックして、CD-ROMをドライブから取出し、返却する。

(2) 著者名および資料名検索

検索画面の項目欄に「著者名」または「資料名」を入力して、2. (1)と同様手順で検索する。

(不明な点は図書館にお問い合わせ下さい)

編集後記

若葉萌える深緑の世界となってきました。今号は特集記事として、大学院をより理解して頂くために、OB・現役院生の方々の体験談をもとに企画してみましたが、いかがでしょうか。次号の発行は7月に予定しています。大同工大キャンパスで取り上げてほしいことや、キャンパスでの生き生きとしたニュースなどで紙面を飾りたいと思っていますので、皆さんの投稿をお待ちしています。

社会交流センター

E-mail: pccir@daido-it.ac.jp

大同工業大学ホームページ

http://www.daido-it.ac.jp